

2023 年度事業報告書

(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

2023 年度 活動テーマ

三位一体のデザイン型共創社会にむけたアクション
—Innovation の花を咲かせよう—

今年度は、上記活動テーマのもと以下の内容を中心に活動を行った。

1. 将来をデザインし、共に創る「デザイン型共創社会」において、ヒーブがリーダーとして発信していくことを意識しながら活動した。月例会や公開講演会は会場とオンラインによるハイブリット開催とし、東京・関西・九州の一体感醸成を引き続き続けるとともに協議会会員の交流機会向上をめざした。
2. 研究会推進グループは、活動テーマや会員ニーズを反映した月例研究会を企画・運営した。会員の能力・資質向上とネットワーク醸成を目的に、公開講演会(2回)、セミ講演会(8回)、会員交流会(1回)等を実施した。
3. 組織の活性化を図るグループは、大きく社会環境が変化する中で軸をぶらさずさらにスマートな協議会運営のための基盤整備ならびに会員の積極的活動支援を行った。さらに、対外ネットワーク強化に集中的に取り組み、ネットワークから得られた社会や企業の求める価値やヒーブへの期待などの情報を、今後の協議会活動の施策に活かすべく共有した。
4. 広報グループは、協議会の価値・認知度を高めるため、月例研究会や支部活動、会員企業の活動等に関する情報を、ホームページやプレスリリースツールの活用、マスコミの取材・寄稿対応、講演・講義への講師派遣等を通じて効果的に発信した。1年間の活動については、機関誌「レポートヒーブ」に取りまとめ、会員へのフィードバックをはじめ、協議会の認知度向上や会員拡大に向けた情報発信に寄与した。
5. 関西支部は、支部主催の例会や大学ならびに諸団体での講義・講師派遣の場において、会員自身の視野拡大だけでなく、接点のある消費者関連団体との親密化を深耕し、ヒーブのプレゼンス向上を促進した。
6. 九州支部は、ヒーブ視点と支部の強みを基に地域に焦点を当てた独自の講話会を開催し、会員の資質向上と九州支部の知名度向上に努めた。
7. 行政の委員会や会議、自治体・大学での講演について、理事を中心に積極的に派遣した。(計26回)
8. 事務局については、人員を2名体制とし、会員活動を充実させるべく最適化を図った。

年間テーマにもとづいて月例研究会・分科会を開催し、会員が協議会の運営や研究活動に主体的に携わることで、東京・関西・九州が一体感を持って活動することができた。

2023 年度代表理事 中村 尚美

I. 2023 年度事業実績

【グループ活動(東京本部)】

1. 理事会

代表理事の諮問機関として、協議会運営が円滑かつ効果的に行われるよう努めるとともに、行政・他団体等と積極的な情報交換を行い、協議会の活動を社会にアピールした。

(1)理事会の開催

Web 会議サービス (Zoom) を用いて開催し、出席者の音声即時に他の出席者に伝わることを確認し、議事に入った。

理事会	4月21日(金)	5月9日(火)	6月9日(金)
	7月6日(木)	8月4日(金)	9月8日(金)
	10月6日(金)	11月10日(金)	12月13日(水)
	1月12日(金)	2月8日(木)	3月8日(金)
	準備理事会	3月15日(金)	

(2)生活者・企業・関連団体等への情報発信

協議会が作成した冊子等を活用し、生活者・企業・行政のめざすべき方向性や具体アクションについて、講演会やHP等を通じ情報発信を行った。

(3)行政・関連団体等が主催する行事への参画

以下のとおり、行政の委員会や会議等へ、理事が中心に参画した。

実施日	内容	主催	エリア	出席者
4月12日 (木)	第19回消費者志向経営に関する連絡会	消費者庁	東京 オンライン	代表理事 中村尚美 副代表理事 鈴木聖子
5月11日 (木)	消費者問題調査会	自民党政調会	東京	副代表理事 鈴木聖子
5月17日 (水)	第20回消費者志向経営に関する連絡会	消費者庁	東京 オンライン	代表理事 中村尚美 副代表理事 鈴木聖子
6月6日 (火)	消費者志向経営 × 製品安全セミナー	消費者庁	徳島 オンライン	代表理事 中村尚美 理事 脇田真知
6月21日 (水)	第21回消費者志向経営に関する連絡会	消費者庁	東京 オンライン	代表理事 中村尚美 副代表理事 鈴木聖子
7月19日 (木)	第22回消費者志向経営に関する連絡会	消費者庁	東京 オンライン	代表理事 中村尚美 副代表理事 鈴木聖子
7月24日 (水)	消費者志向経営優良事例表彰選考委員会	消費者庁	東京 オンライン	代表理事 中村尚美 副代表理事 鈴木聖子
7月27日 (木)	第25回神戸市消費生活会議	神戸市消費生活センター	関西	関西支部長 辻美智子
8月4日 (金)	令和5年度「信頼できる消費市場」の好循環の推進に向けた取組 第1回消費市場関係団体懇談会	九州経済産業局	九州	九州支部長 難波裕扶子
9月7日 (木)	消費者問題調査会	自民党政調会	東京	理事 島田絵美

実施日	内容	主催	エリア	出席者
9月11日 (火)	第23回消費者志向経営に関する連絡会	消費者庁	東京 オンライン	代表理事 中村尚美 副代表理事 鈴木聖子
9月29日 (金)	第5期消費者教育推進会議	消費者庁	東京	特別会員 宮木由貴子
10月24日 (水)	第24回消費者志向経営に関する連絡会	消費者庁	東京 オンライン	代表理事 中村尚美 副代表理事 鈴木聖子
11月2日 (木)	第14回消費者問題調査会	自民党政調会	東京	理事 脇田真知
11月6日 (月)	第77回神戸市消費者苦情処理審議会	神戸市消費生活センター	関西	関西支部長 辻美智子
11月15日 (月)	第25回消費者志向経営に関する連絡会	消費者庁	東京 オンライン	代表理事 中村尚美 副代表理事 鈴木聖子
11月15日 (月)	男女共同参画推進会議	内閣府男女共同参画室	東京 オンライン	代表理事 中村尚美
12月7日 (木)	消費者志向経営優良事列表彰選考委員会	消費者庁	東京 オンライン	代表理事 中村尚美 副代表理事 鈴木聖子
12月15日 (金)	消費者問題調査会	自民党政調会	東京	代表理事 中村尚美
12月20日 (水)	消費者問題調査会	自民党政調会	東京	代表理事 中村尚美
12月26日 (水)	第26回消費者志向経営に関する連絡会	消費者庁	東京 オンライン	代表理事 中村尚美 副代表理事 鈴木聖子
2月15日 (木)	消費者問題調査会	自民党政調会	東京	代表理事 中村尚美
2月26日 (月)	消費者志向経営優良事列表彰式	消費者庁	東京 オンライン	代表理事 中村尚美 理事 脇田真知 九州支部長 難波裕扶子
3月14日 (木)	第78回神戸市消費者苦情処理審議会	神戸市消費生活センター	関西	関西支部長 辻美智子
3月19日 (火)	第27回消費者志向経営に関する連絡会	消費者庁	東京 オンライン	副代表理事 鈴木聖子
4月2日 (火)	消費者問題調査会	自民党政調会	東京	代表理事 中村尚美

(4)行政機関との連携

- ・消費者庁とは、消費者志向経営推進組織メンバーとしての活動、4月の公開講演会では、消費者庁長官に登壇いただいた他、東京の月例研究会における消費者白書及び改正消費者契約法の解説(消費者調査課)、消費者教育推進会議への会員派遣等、継続的な連携を行っている。
- ・内閣府とは、男女共同参画推進連携会議議員として参画し、連携を深めている。

(5)税理士訪問・相談

11月10日に染谷税理士と面談を実施し、会計および事業活動の進捗状況を報告するとともに会計の適正運用について確認・相談を実施した。

2. 研究会推進グループ

会員の能力・資質の向上およびネットワーク醸成に向け、以下の取り組みを通じて会員の積極的な参画意識を高め、協議会活動のメリットを実感するとともに、会員相互のコミュニケーション強化・支援を図った。

(1) 2023 年度(第 21 回)総会・公開講演会の運営

新体制での新たなスタートを迎えるべく、会員や会員上司・同僚、行政等の方々をお迎えし、公開講演会を行った。

<公開講演会>

開催日：4月21日(金)

会場：明治安田生命丸の内MYPLAZA会議室

司会：松村 美和子 大樹生命保険㈱

参加者：公開講演会 71名

テーマ：「消費者・行政・事業者が目指すべきこれからの『消費者志向経営』」

講師：消費者庁 長官 新井 ゆたか氏

総会については、【グループ活動】3. 組織の活性化を図るグループ(1)を参照。

(2) 月例研究会の運営

- ・活動テーマにもとづき、①公開講演会(10月・1月)②セミ講演会(6月・7月・8月・9月・11月・12月・2月・3月)③会員交流(5月)等のテーマを選定し、会員ニーズを反映しながら講演内容の充実を図った。
- ・会場とWeb会議サービス(Zoom)を用いたハイブリッド形式での月例研究会を運営した。
- ・協議会活動への周知を目的とし、一般の方も参加できる公開講演会を適宜実施した。
- ・会員間の情報共有を目的とし、講演会・分科会活動の動画を撮影し、YouTubeにて配信した。

【月例研究会詳細】

No.	実施日・会場	主催	名称	講演テーマ・講師	出席者数
1	5月19日(金) オンライン(Zoom) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	東京	5月度 月例研究会	◆新ホームページ説明 ◆正会員同士の交流会・会員自己紹介 ◆分科会キックオフ/茶話会	36名
2	6月28日(水) オンライン(Zoom) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	東京	6月度 月例研究会	◆分科会活動 ◆セミ公開講座 ①「消費者白書」について 講師：消費者庁参事官(調査研究・国際担当) 為藤里英子氏 ②「改正消費者契約法のポイント」 講師：消費者庁消費者制度課 課長補佐 森貞 涼介氏	分科会 32名 講演会 54名
3	7月25日(火) オンライン(Zoom) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	東京	7月度 月例研究会	◆分科会活動 ◆セミ公開講座 ①「製品安全対策優良企業表彰」とは 講師：消費生活コンサルタント 三浦 佳子 氏 ②家電製品における製品安全対策と コネクテッド家電のこれから 講師：日立グローバルソリューションズ株式会社 品質保証本部 岡田 隆 氏 家電サービス本部 塚本 陽子 氏	分科会 35名 講演会 36名
4	8月25日(金) オンライン(Zoom) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	東京	8月度 月例研究会	◆分科会活動 ◆セミ公開講座 消費者に伝えるテクニック ～見やすい・伝わりやすい制作のポイント～ 講師：株式会社 野毛印刷社 小池 久美子 氏 株式会社 ARATA 高橋 奨 氏	分科会 29名 講演会 49名

No.	実施日・会場	主催	名称	講演テーマ・講師	出席者数
5	9月22日(金) オンライン(Zoom) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	東京	9 月度 月例研究会	◆分科会活動 活動中間報告 ◆セミ公開講座 「SNS を活用した消費者とのつながり」 講師:サントリーホールディングス株式会社 松原 愛 氏 (日本ヒーブ協議会理事)	分科会 23 名 講演会 68 名
6	10月17日(火) オンライン(Zoom) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA ホール	東京	10 月度 月例研究会	◆公開講座 「家庭と企業と地球はつながっている～生活者 として、企業人として、大切な食の意識～」 講師:料理研究家、食プロデューサー 浜内 千波 氏	公開講演会 118 名
7	11月28日(金) オンライン(Zoom) OMM(旧:大阪マーチャン ダイズ・マートビル) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	関西	11 月度 月例研究会	◆セミ公開講座 ①「視覚障がい者も消費者の一人であるために～私 たちのくらしの工夫～」 講師:社会福祉法人日本ライトハウス情報文化 センターサービス部 きんきピジョンサポート代表代行 竹田 幸代 氏 ②「～大阪・関西万博～『いのち輝く未来社会のデ ザイン』の取り組みを通じて、生活者視点で私 たちができる行動変容は何かを考える」 講師:日本経済新聞社 大阪・関西万博準備室 室長 檜崎 健次郎 氏	講演会 27 名
8	12月14日(木) オンライン(Zoom) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	東京	12 月度 月例研究会	◆分科会活動 ◆公開講座 「企業を取り巻く環境変化～JARO に寄せられた苦 情事例から学ぶ消費者に寄り添った発信方法のヒン ト～」 講師:JARO 公益財団法人 日本広告審査機構 審査部 佐藤 由希 氏	分科会 23 名 講演会 40 名
9	1月12日(金) オンライン(Zoom) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	東京	1 月度 月例研究会	◆分科会活動 ◆公開講座 「毎日の仕事が楽しくなる！ クレームにならない対話術」 講師:日本クレーム対応協会 谷 厚志 氏	分科会 27 名 公開講演会 79 名
10	2月28日(水) オンライン(Zoom) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	東京	2 月度 月例研究会	◆分科会活動 ◆セミ公開講座 「ロッテのサステナビリティの取り組み“生活者と 共に創る”」 講師:株式会社ロッテ サステナビリティ推進部 部長 菅井 江巳子 氏 企画課課長 飯田 智晴 氏	分科会 23 名 講演会 47 名
11	3月26日(火) オンライン(Zoom) 明治安田生命保険(相) MYPLAZA 会議室	東京	3 月度 月例研究会	◆分科会活動 活動発表 ◆セミ公開講座 「ビジネスの場における『やさしい日本語』 ～多様なお客様・従業員に情報を伝えるには?～」 講師:第一生命経済研究所 水野 映子 氏 (日本ヒーブ協議会理事)	分科会 26 名 講演会 47 名

(3)分科会の運営

毎月の分科会活動では、下記3つの研究テーマに分かれ、異業種交流の特徴を活かした情報交換や議論を積極的に行った。

- ① お客様対応を考える分科会
- ② 生活者共創分科会
- ③ 月例会企画・運営分科会

3. 組織の活性化を図るグループ

協議会の基盤整備ならびに会員の積極的な活動参画に向けた「会員の積極的活動参加支援」「諸規則見直しによる組織活性化」に加え、2022 年度の定款施行規則改定で追加された「対外ネットワーク強化」活動に取り組んだ。

(1) 対外ネットワーク集中強化

対外ネットワークを強化し、協議会がめざすことを理解・共感し共に創る仲間を増やすことで、活動の充実及び進化促進を図った。

特に 2023 年度については、新型コロナで弱っている既存対外ネットワークを再度強化、あわせて新規ネットワーク拡大と共創促進を意図して、訪問など含め集中的にアクション実施。大きく社会環境が変化の中で、ネットワークから得られた情報、特に社会的価値×経済的価値に向けた生活者との共創の重要性やヒーブへの期待など含め、今後の協議会活動の方向性及び施策に活かすべく理事会にて共有した。

(2) 会員の積極的活動参加支援

会員の協議会に対する認識を深め、会員自らが積極的に活動に参加できるような支援として以下のような活動を実施した。

< 1 > 会員ネットワーク強化&コミュニケーション促進

① 「新『正会員リスト』運用方法」スタート

異業種異職種の多様な会員ネットワークのメリットを活かすため、活用しやすい「新『正会員リスト』運用方法」を設定。5 月度月例研究会及び「理事会便り<号外>」でも周知して、コミュニケーションを促進した。

② 『正会員リスト』の迅速な共有、活用化

「新『正会員リスト』運用方法」で、ホームページメンバーズコーナーに『正会員リスト』を迅速に共有することができるようになり、会員の活用によるネットワーク強化に資することができた。

< 2 > 会員自らの積極的活動支援

① 会員へのガイダンス

協議会に関する会員の理解を深め積極的活動を促進する目的で、5 月度月例研究会のキックオフミーティングにおいて、協議会がめざすパーパス等の北極星、本年度活動テーマ、本年度注力する「実践力強化」等の活動ポイントや行動の際大切にしたい価値観などについて代表理事より説明した。

② 会員継続および新規加入への働きかけ

公開講演会参加者を含めさまざまな接点機会を活かし新規加入等の働きかけを積極的に実施するとともにスムーズな連携仕組み化を行った。

会員継続のためのフォローの担当を明確にして復会に向けた仕組み化と促進を実施。さらに、賛助会員に対して、活動への理解を得て継続を依頼した。

特別会員に対して、最新協議会活動理解及び月例研究会・分科会参加も促進する目的で、案内の時期及び方法の見直しを行った。

< 3 > 会員の協議会運営への積極的参画支援及び参画意識向上

① 2023 年度（第 21 回）総会の運営

会場と Web 会議サービス (Zoom) を用いたハイブリッド形式で定時社員総会を開催した。

役割		担当	
司会	総合司会	松村美和子	大樹生命保険株式会社
議長団	議長	近藤梨沙子	日本生命保険相互会社
	書記	百瀬こずえ	富国生命保険相互会社
報告者	2022 年度事業報告	2022 年度代表理事：中村尚美 日新製糖株式会社	

2022 年度決算報告	2022 年度代表理事：中村尚美 日新製糖株式会社
監事による事業及び会計監査報告	監事：片岡まり 一般社団法人株主と会社と社会の和 監事：林真由美 アサヒビール株式会社
定款の一部変更	2022 年度代表理事：中村尚美 日新製糖株式会社
2023 年度役員選任	選挙管理委員長：丹野富美恵 富国生命保険相互会社
2023 年度事業計画	2023 年度代表理事：中村尚美 日新製糖株式会社
2023 年度予算計画	2023 年度会計：鈴木聖子 明治安田生命相互会社

② 協議会運営の見直し及び会員への共有

今後の変化を機会とすることができるシンプル&スマートな協議会運営への変革を視野に、めざしたい本質を確認しつつ「超地域一体運営体制」「役員選出プロセス」等を再構築。考え方を早い時点で会員へ共有しつつ具体化を進め、諸規則変更が必要な変革内容については改定と適切に繋げ、協議会運営基盤を整備した。

③ 理事会便りの発行

理事会の議題の中からトピックスをまとめ、会員に報告した。毎月 1 回の理事会タイミングに加え、「理事会便り<号外>」として、理事会からのメッセージを発信して参画意識向上に寄与した。

④ 2024 年度役員選出のための選挙管理委員会補佐

現職の代表理事が設置・委任した 2024 年度役員選出のための選挙管理委員会を、新たな「役員選出プロセス」に従って役員選出が滞りなく進むよう補佐した。

【選挙管理委員会】

	氏名	会社名
委員長	杉本美穂	ライオン株式会社
委員	三田まり子	株式会社販売促進研究所

(3) 諸規則見直しによる組織活性化

組織の活性化を視野に再構築した協議会運営方法に沿って、諸規則の見直しをおこない、以下のような改定を実施した。

① 総会における定款改定の可決

2023 年度の総会において、下記内容の定款変更を可決した。

第 3 条の目的に掲げられているヒーブの定義を狭義の消費者関連部門で働く女性に限定しない記載ぶりに修正するとともに、協議会の目的を 40 周年誌で掲げたヒーブのミッションや最近の対外的な発信時の書きぶりを加味した表現および事業内容に修正する。第 8 条の社員についての文言も第 3 条に合わせ変更する。

② 定款施行規則の改定

2023 年 8 月 4 日開催の理事会において役員選出に関する規定を変更した。(第 9 条～第 13 条)

2024 年 3 月 8 日開催の理事会において会員に関する規定の一部及び理事会組織に関する規定を変更した。(第 1 条、第 3 条、第 14 条～第 16 条)

③ 個人情報保護方針の改定

2023 年 6 月 9 日開催の理事会において「個人情報保護方針」の「利用目的」一部変更を決定。改定内容について「理事会便り<号外>」にて会員に周知のうえ、6 月 20 日改定版をホームページに公開した。

4. 広報グループ

協議会の価値・認知度を高めることを目指し、以下の広報活動に取り組んだ。

(1) 「レポートヒーブ」の作成

下表の通り、機関誌「レポートヒーブ」2023年度版を作成した。既存の「What is HEIB?」の情報（会員情報組織体制、活動内容など）は「レポートヒーブ」2023年度版に統合した。

名称	発行予定年月	内容
レポートヒーブ 82号	2024年4月	・当協議会の活動目的や入会案内・会員情報・組織体制等を掲載 ・当協議会の2023年度の活動内容（月例研究会、分科会、講師派遣、行政への参画など）を画像とともに紹介

(2) 講演会等への講師の派遣

下表の通り、自治体・大学への講演会等へ講師を派遣した。

実施月	主催	テーマ	講師
2023年6月	関西学院大学	経済学部「経済事情E」（市場経済と消費者問題） 企業と生活者をつなぐ「経済事情E」	辻 美智子
2023年8月	(一財)大阪府男女共同参画推進財団	女子高校生のためのサマースクール 「ガールアップセミナー2023」	辻 美智子 元芳 晃子
2023年9月	高知県立消費生活センター、 高知県立大学	消費生活オンライン講座 「私たちの声の商品を変える ～消費者と企業の信頼ある関係を目指して～」	松原 愛
2023年10月 オンデマンド	大阪府消費生活センター	消費者教育リーダー養成講座 応用講座（動画配信）	木谷あゆみ
2023年12月 2024年1月	(受託事業者： AICE)	消費者教育リーダー養成講座 実践講座Ⅱ「企業×学生 交流会」	辻 美智子 植村 知佐子
2023年12月	神戸学院大学	共通教育「現代の社会（消費者問題）」 —「企業の消費者対応」企業と生活者をつなぐ—	植村知佐子
2023年12月	神戸学院大学	共通教育「現代の社会（消費者とリスク）」 —「消費者の声を反映」企業と生活者をつなぐ—	木谷あゆみ

(3) プレスリリース等の配信

プレスリリース配信サービスPR Timesを用い、下表の通り同社Webページを通じてニュースリリース等を配信した。また、当協議会ホームページにおいても、ニュースリリース等を掲載した。

配信日	種別	タイトル
2023年5月9日	リリース	「デザイン型共創社会」を目指す日本ヒーブ協議会、45年目の新体制が始動
2023年9月12日	リリース	料理研究家 浜内千波さん講演会 10月17日に東京丸の内で開催
2023年9月12日	ストーリー	企業・生活者・地域社会を生活者視点でつなぐヒーブ協議会 ～九州編～

(4) マスコミ等への対応

マスコミ等からの取材・寄稿依頼に対応した。掲載記事は下表の通り。

<記事掲載【所信表明関連】>

媒体名	発行者	掲載日	タイトル
日本消費経済新聞	日本消費経済新聞社	2024年1月1日号	「年頭所感」代表理事 中村尚美 関西支部長 辻美智子 九州支部長 難波裕扶子
消費と生活	消費と生活社	2024年1・2月号	「年頭所感」代表理事 中村尚美
ニッポン消費者新聞	日本消費者新聞社	2024年1月1日号	「年頭所感」代表理事 中村尚美

<記事掲載【その他】>

媒体名	発行者	掲載日	タイトル
消費と生活	消費と生活社	2022年7・8月号	日本ヒーブ協議会 総会・公開講座を公開
ニッポン消費者新聞	日本消費者新聞社	2022年11月1日号	「料理」通して消費者・企業の「つながり」検討 公開講演会 食品ロス発生の構造も指摘

【支部活動】

1. 関西支部

今年度も会員数は少ないながらも、産官学それぞれが抱えている消費者問題に対してヒーブの知見を述べさせていただく機会を創出し、会員一人ひとりが月例研究会以外の場で活躍することができた。特に関西支部は長年の活動の積み重ねにより消費者団体等とのつながりが深く、おかげさまで報酬を伴う講義等の依頼も定着している。

関西の消費者教育の推進においてヒーブの知名度を向上させながら、関連団体との横のつながりも深耕することで、三位一体の活動をおこなうことができた。

(1) 月例研究会活動

① 月例研究会（詳細については、2. 研究会推進グループ(2) 月例研究会の運営を参照）

- ・ヒーブとして求められる資質（現状把握力・問題発見力・判断力、問題解決力・プレゼンテーション力等）を自身の行動変容につなげることを目的に、「大阪・関西万博」をテーマにした講演会を実施した。
- ・支部独自の方針として ACAP 西日本支部との合同例会を年 1 回開催することで、他団体との交流機会を創出、会員の上司・同僚も巻き込んだ来場型を取り、ヒーブへの理解を深めてもらう機会とした。

② 対面開催

- ・合同例会以外に年 2 回の対面の場を設けて、会員同士のコミュニケーションを促進した。

③ 活動報告

- ・レポートやアンケート結果等を会員に報告し、研究会活動で得た情報の共有・定着を図った。

(2) 広報活動

他団体・行政・大学との交流や関連団体等と協働しながら当協議会の情報発信や消費者教育活動等を行った。

(3) 組織活動

① ガイダンスミーティング

- ・新入会員を対象にガイダンスミーティングを実施し、当協議会についての理解を深めた。

② 振り返り

- ・今年度の活動や運営について良かった点と課題を話し合い、会員の負担軽減に向けた改善を行った。

(4) 行政・関連団体の主催する行事等への参画、講演会への講師派遣

行政の委員会・会議、関連団体の会合への参加、自治体・大学の講演会等へ講師を派遣した。

詳細については、【グループ活動】 1. 理事会(3)、4. 広報グループ(2)を参照。

【関西支部理事】

支部長 辻 美智子 第一生命保険（株）

2. 九州支部

今年度の活動テーマにもとづき、生活者に必要な情報を得るため「九州支部講話会」を新たに始めた。リアル開催を重視したことで、九州支部の会員同士だけでなく会員の上司同僚の皆さまとの双方向コミュニケーションが図られ、活力ある組織づくりとヒーブ協議会の知名度向上が実現できた。

(1) 月例研究会活動

① 月例研究会（詳細については、2. 研究会推進グループ(2)月例研究会の運営を参照）

- ・東京・関西の月例研究会のオンライン(Zoom)での受講が可能となり、支部会員も積極的に参加できる環境となった。これにより、学びの機会を得ただけでなく東京や関西の会員との交流が深まった。
- ・最新の学びや組織を超えた繋がりをオンラインにより触れることで、仕事の幅と可能性を広げることが出来た。
- ・「今、知りたい！」ことを学べる「九州支部講話会」を全4回実施。

実施日	講演テーマ	講師
7月18日(火)	社内・社会のお悩み解決ゲーム ～THE SDGs Action カードゲーム「X(クロス)」を 体験し社内活性化を図る～	難波 裕扶子 氏 (日本ヒーブ協議会九州支部長・(株)シンク・オブ・アザーズ代表取締役)
8月30日(水)	生成 AI 研修会 ～AI はくらしを、企業を、地域をどう変えるのか～	柏村 祐 氏 (第一生命経済研究所 ライフデザイン研究部主席研究員)
11月24日(金)	「対話・電話・メールでの心構え お客様対応で大切な表現とは」	林 真由美 氏 (日本ヒーブ協議会監事・アサヒビール(株) 品質保証部 お客様相談室)
2月19日(月)	「オンライン時代のファシリテーション」	加留部 貴行 氏 (日本ファシリテーション協会 フェロー・加 留部貴行事務所AN-BAI代表、九州大 学大学院統合新領域学府客員教授)

② 運営制度

Web 会議サービス(Zoom)開催を中心とした運営を継続した。

(2) 組織活動

Web 会議サービス(Zoom)を活用し、支部会員全員で適時運営委員会を開催し、知恵を出し合うことでスムーズな運営が出来た。またリアルとハイブリット開催を意識した「九州支部講話会」で組織の活性化を図れた。

(3) 今後の課題

- ① 九州地区のスムーズで活力ある活動
- ② 会員一人ひとりが主体的に参加できる活動
- ③ 社会の潮流や兆しを分析し、会員企業のみならず社会が求める講座の実施
- ④ 会員拡大

【九州支部理事】

支部長 難波裕扶子 (株) シンク・オブ・アザーズ

II. 組織

2023 年度は、以下の役員および運営グループ等にて運営を行い、理事会を実施し具体的な活動に取り組んだ。

【役員】

代表理事	中村 尚美	日新製糖株式会社
副代表理事	鈴木 聖子	明治安田生命保険相互会社
理事	島田 絵美	三菱自動車工業株式会社
理事	須之内 たか美	住友生命保険相互会社
理事	松原 愛	サントリーホールディングス株式会社
理事	水野 映子	株式会社第一生命経済研究所
理事	脇田 真知	サンスター株式会社
関西支部		
支部長	辻 美智子	第一生命保険株式会社
九州支部		
支部長	難波 裕扶子	株式会社シンク・オブ・アザーズ
監事	片岡 まり	一般社団法人株主と会社と社会の和
監事	林 真由美	アサヒビール株式会社

【運営グループ担当理事】

理事会		中村 尚美
研究会推進グループ	担当理事	島田 絵美 鈴木聖子
組織の活性化を図るグループ	担当理事	脇田 真知 須之内たか美
広報グループ	担当理事	水野 映子 松原 愛
関西支部	支部長	辻 美智子
九州支部	支部長	難波 裕扶子

【会員数】2024 年 3 月 31 日現在

正会員	50 名
うち関西支部	7 名
うち九州支部	5 名
休会	4 名
個人会員	3 名
賛助会員(法人)企業数	24 社
賛助会員(個人)	7 名
特別会員	22 名

【事務局】

〒151-0053
 東京都渋谷区代々木 2 丁目 30 番 4 号 C-002
 TEL03-6869-0428
 URL <http://www.heib.gr.jp>
 E-mail:heib-jimukyoku@heib.gr.jp
 志保沢 久子
 助川 文緒

2023年度 収支決算報告書

自 2023年 4月 1日

至 2024年 3月 31日

一般社団法人 日本ヒーブ協議会

1. 一般会計

<収入の部>

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
前 期 繰 越 金	1,210,713	1,210,713	0
会 費			
正 会 員	3,240,000	3,000,000	240,000
個 人 会 員	72,000	54,000	18,000
小 計	3,312,000	3,054,000	258,000
入 会 金			
正 会 員	90,000	30,000	60,000
個 人 会 員	0	0	0
小 計	90,000	30,000	60,000
賛 助 会 費			
法 人	1,250,000	1,260,000	△ 10,000
個 人	55,000	50,000	5,000
小 計	1,305,000	1,310,000	△ 5,000
雑 収 入			
預 貯 金 利 息	0	106	△ 106
特 別 例 会 費	6,000	9,310	△ 3,310
そ の 他	160,000	181,480	△ 21,480
小 計	166,000	190,896	△ 24,896
収 入 合 計	4,873,000	4,584,896	288,104
総 合 計	6,083,713	5,795,609	288,104

<支出の部>

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
活 動 費 (東京・関西・九州合計)	1,808,500	1,013,993	794,507
東京	1,618,500	946,166	672,334
理事会運営費	15,000	7,329	7,671
研究会推進活動	732,000	392,448	339,552
組織の活性化を図る活動	308,000	40,740	267,260
広報活動	563,500	505,649	57,851
関西	80,000	0	80,000
九州	110,000	67,827	42,173
運 営 費	3,911,000	3,900,027	10,973
地代家賃	580,800	614,350	△ 33,550
人件費	1,750,000	2,060,890	△ 310,890
税理士報酬	367,200	367,200	0
運賃・通信費	300,000	206,076	93,924
交通費	230,000	132,265	97,735
会議費	10,000	0	10,000
消耗品費	250,000	178,606	71,394
印刷費	50,000	58,729	△ 8,729
支払手数料	60,000	42,790	17,210
交際費	10,000	0	10,000
租税公課	100,000	117,058	△ 17,058
雑費	110,000	16,490	93,510
商標権継続登録費用	93,000	105,573	△ 12,573
支 出 合 計	5,719,500	4,914,020	805,480
当 期 剰 余 金	△846,500	△329,124	△ 517,376
総 合 計	4,873,000	4,584,896	288,104

2. 特別会計

<ホームページ構築積立金>

	積 立 額	支 出 額	残 高
前 期 繰 越			754,122
支 出 額		205,200	548,922
残 高			548,922

貸借対照表

2024年3月31日現在

一般社団法人 日本ヒーブ協議会

(単位：円)

資産の部		負債及び剰余金の部	
現金	54,709	預り金	47,272
普通預金	11,042,129	未払費用	192,000
前払費用	0	未払金	0
電話加入権	72,800	前受金	333,000
保証金	35,000	基本金	6,601,855
		調査費積立金	200,000
		周年行事積立金	2,400,000
		ホームページ構築積立金	548,922
		前期繰越正味財産額	1,210,713
		正味財産増加額	△ 329,124
合計	11,204,638	合計	11,204,638

正味財産増減計算書（案）

(2023年4月1日～2024年3月31日)

(単位:円)

科目	金額
前期繰越正味財産額	1,210,713
当期損失	△329,124
次期繰越正味財産額	881,589

財産目録

2024年3月31日現在

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金 手許有高	54,709		
普通預金 三菱UFJ銀行原宿支店	10,583,590	未払費用 ホームページ委託料	192,000
〃 〃 (関西支部)	184,714	前受金 翌期会費	333,000
〃 ゆうちょ銀行 (九州支部)	273,825	預り金 源泉所得税	47,272
流動資産合計	11,096,838	流動負債合計	572,272
2. 固定資産			
家賃保証金 Y. C. S	35,000		
電話加入権	72,800		
固定資産合計	107,800		
資産合計	11,204,638	負債合計	572,272

監査報告書

定款第 32 条より 2023 年度の会務並びに会計につき監査を行った

結果、下記のとおり報告いたします。

記

1. 会務は滞りなく運営され、予算の執行状況は適正である。
2. 現金、預金については適正、確実に管理保管されている。
3. 帳簿および証拠書類は正確に記入、保存されている。

以上

2024 年 4 月 5 日

一般社団法人 日本ヒーブ協議会

監事

小野 真由美



監事

山崎 まり

